

平成 27 年度環境・食育校種間連携パートナーズクール事業

里山 ～人と森の調和と共生～

平成 27 年 10 月 6 日（火）、第 2 回環境・食育校種間連携パートナーズクール事業を府立須知高等学校にて実施し、瑞穂中学校 1 年生 19 名、須知高校食品科学科公園管理コース 2 年生 4 名、京都大学大学院修士 2 回生 2 名が、「ウィードの森」散策をしました。

今回は「二次林」について学習しました。二次林とは、遠い昔に人の手によって、もともとの原植生が伐採され、コナラやクヌギなどの落葉広葉樹を中心とした林に作り変えられたもので、陽樹や陰樹の意味なども含め須知高校の田中良泰教諭より説明を受けました。

その後、ウィードの森で二次林の観察や、ナラ枯れの被害にあった木をチェーンソーで 30～40cm に切り分ける作業体験をしました。中学生たちは、田中教諭から使い方の説明を聞いた後、各グループで高校生からアドバイスを受けながら作業を進めました。チェーンソーを初めて使う中学生がほとんどで、最初は緊張した表情で機械を見つめ、恐る恐る切断作業をしていましたが、慣れてくると作業を楽しむ様子も見られました。何と言っても、木を切る時にチェーンソーから伝わってくる振動が生徒には初めての体験で、チェーンソーを放した後も「まだ震えてる！」との声があがったり、「チェーンソーで木を切ったのが楽しかったです。」という感想が出されました。

一方、須知高校生からは、「自分で機械を使うのと、人に教えるのとは違って、教えることの難しさも勉強になりました。」と振り返っていました。

また、一緒に活動した大学院生からは、チェーンソーの体験と併せて「ウィードの森を実際に歩いてみて、陽樹や陰樹の様子を直接観察したり、森の空気の違いや風の薫りを味わったりできて良かった。」という感想が出されるなど、参加者それぞれにとって学びのある取組となりました。

次回（最終回）の取組は、11 月 10 日（火）に予定されています。

